

支部長退任挨拶

清流会東京支部の皆さん、私は今月末をもちまして東京支部長を退任することになりました。平成16年に45歳の若輩で支部長の大役をお受けし大変不安でしたが、事務局長（現副支部長）の高7回の井上晴視さんを筆頭に、支部長スタッフ、役員、年次幹事等東京支部の皆さんと加古川の本部の会長・役員、学校長等多くの皆様に支えて頂き、何とか17年間務めて参りました。ここに心より感謝申し上げます。

私は東京支部を、加古川より遠く離れた東京を中心とする首都圏の卒業生が交流する場を持ち、年次やキャリアを超えてお互いを刺激し、明日へのエネルギーを貰い合えるような活動にしたいと考えていました。この為に、年一度の総会・懇親会である「同窓生の集い」の活性化に注力して来ました。今は目玉になった卒業生によるゲスト講演や加古川クイズ等の企画や年次幹事からの熱心な呼びかけにより、一昨年の同窓生の集いには300名を超える同窓生が集まる場にまで発展して参りました。旧制中学の大先輩から上京間もない初々しい新入会員まで、また女性の方々の参加が多いのも東京支部の特徴になり、清流会内は勿論、兵庫県内高校の同窓会として多くの注目を集めるまでになりました。

もう一つの柱は、お世話になった母校への恩返です。

SSH(スーパーサイエンススクール)やJSEC(高校生・科学技術チャレンジ)のプログラム等で上京される生徒さんを東京支部役員のアレンジで東大や主要企業にお招きし見聞を広げる機会を提供しました。

また、一昨年には母校の図書館での「清流文庫」の設置を提案し、卒業生の著書を集結し現役の生徒さんの知的好奇心の向上にお役に立てたと思います。今では200冊近い著書となり、後輩が先輩の努力の精華を学び、同窓生が活字を通じた強い絆で結ばれることになりました。

生徒さんから勇気を頂いたこともありました。

平成23年3月11日の東日本大震災の際には、東京支部からのお願いを学校が快諾して下さり、2年生310名が「先輩のみなさん、どうかお元気でいてください。復興を心からお祈りしています。後輩一同」と書かれた大きな横断幕を全員で掲げた写真を作成してくれました。この写真と同窓生からご提供頂いた加古川の和菓子を被災地の卒業生90名に送ったところ、「母校との強い絆を感じた」「東高万歳の心境」など、多くの感激のメッセージを頂きました。

17年間で出来たことも出来なかったことも共に多くあります。

しかし、次の執行部には是非、自ら清流会活動を思う存分楽しみ、より素晴らしい活動にしたいと思っています。

“Go where nobody has gone. Do what nobody has done.”

清流会東京支部及び関係者の皆様の益々のご清祥を祈念致します。

令和2年8月17日
清流会東京支部第6代支部長
松井昭憲